

南海トラフ巨大地震を迎え撃つ

～減災科学テクノロジーの動向と行政・大学・地域・企業の協働システム～

南海トラフ地震は今後30年間に70%程度の確率で発生し、最悪の場合本県だけで約31,300人の、かけがえのない命が失われるおそれがあります。

巨大地震の未然防止はできませんが、総合的な減災科学プロジェクトの推進により、被害を最小限にとどめることは可能であり、行政、大学、地域、企業にとって今や共通の課題といっても過言ではありません。

そこで、減災科学プロジェクトのキックオフ事業として、徳島文理大学と徳島県及び関係機関が連携し、「減災科学シンポジウム」を開催いたします。

**入場
無料
要申込**
定員450名

日時

平成27年

11月2日(月) 13:30～16:00(開場12:30)

徳島県南海トラフ巨大地震被害想定
震度分布図



会場

徳島文理大学・徳島キャンパス「アカンサスホール」
(徳島市山城町西浜傍示180)

プログラム

(敬称略)

開会 13:30

開会挨拶: 村崎学園理事長 村崎 正人

第I部 基調講演 13:35～14:30

「2038年南海トラフの巨大地震」

講師: 京都造形芸術大学学長(元京都大学総長) 尾池 和夫



第II部 パネルディスカッション 14:35～16:00

パネリスト: 徳島県知事 飯泉 嘉門

京都造形芸術大学学長 尾池 和夫

株式会社大塚製薬工場代表取締役社長 小笠原 信一

名古屋大学減災連携研究センター教授 金田 義行

コーディネーター: 徳島文理大学総合政策学部教授 床桜 英二

閉会 16:00

共催: 徳島文理大学・徳島県

協賛: 名古屋大学減災連携研究センター・株式会社大塚製薬工場